

## 第2学年 生活科学習指導案

橋本市立紀見小学校

指導者 西淵 健太

### 1. 単元名

「つくろう あそぼう くふうしよう」

### 2. 単元の目標

- ・身近にあるものを使って動くおもちゃを工夫して作り、そのおもしろさに気付いたり、集団で行う遊びを考えてルールを守りみんなで遊びを楽しんだりすることができる。

### 3. 評価基準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
みんなで遊ぶことに興味をもち、協力して遊びを楽しもうとしている。	おもちゃの動きを高めたり、みんなで楽しく遊ぶためのルールや約束を考えたりしている。	みんなで遊ぶには必要なルールや約束があること、それを守るとみんなで楽しく遊べることに気付いている。

### 4. 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、身の回りにある材料を利用しておもちゃを自分で作る楽しさを十分に堪能し、友だちとかかわりながらみんなで遊ぶ楽しさを実感することができるようにしたい。おもちゃ作りに必要な材料を集めたり、動きを生み出している動力を意識するなど、子どもたちが計画的・主体的に取り組むことを目指している。また、作ったおもちゃで繰り返し遊ぶ活動を通して、科学的な目をもっておもちゃを改造したり、友達と協力して遊ぶためのルールを決めたりするなど、豊かな想像力、実行力を育てていきたい。

#### (2) 児童について

本学級の児童は規範意識の高い児童が多く、工作活動や、グループ活動でも安全に活動することができる。また、1年生に楽しんでもらうためにはどうすればいいかということを考えることができる児童もたくさんいる。これまで児童は、1年生やおうちのの人に作ったおもちゃを遊んでもらう「秋のフレンドパーク」にむけて、身近にある材料から作れるおもちゃを考え、おもちゃを作るための計画書をグループになって話し合い作成するなど計画的・主体的に準備を進めてきた。

#### (3) 指導について

この単元で取り上げるおもちゃは、単に一人で遊ぶだけではなく点数を競い合うなどゲーム性のある「ボーリング」などのおもちゃも取り上げている。そのため、周りへの安全やルールなどをしっかりと決めて

作り出すひつようがある。そこで本学級では、おもちゃ作りの計画の前に安全に遊ぶためのルールや気を付けなければいけないことなどを子どもたちで話し合わせる時間を十分に取ってから指導したい。また、材料の性質や大きさなど、想像力を働かせておもちゃを作ることの楽しさも感じ取らせたい。さらに、自分たちが工夫して作ったおもちゃを1年生やおうちの人に遊んでもらいことで、人を楽しませることの喜びを体験させていきたい。

## 5. ESDの観点

公平性・・・1年生みんなが楽しめるおもちゃを考えたり、そのための安全なルールを考えている。  
 連携性・・・友達と協力しておもちゃを作り上げている。  
 責任性・・・1年生に遊んでもらうという上級生としての自覚を持って取り組んでいる。

## 6. 単元の展開（全11時間）

主な学習活動	学習への支援	評価・備考
どんなあそびができるかな (1)	友達の遊び方を見せて説明したり、特徴に関する問いかけをしたりする。	集めたものについて、その特徴をとらえたり、できそうなことを考えたりしている。
どうすればもっと楽しくあそべるかな(3)	ルールや約束を守ることの大切さや良さについて話し合う。	みんなで遊ぶためには必要なルールがあること、それを守ると楽しく遊べることに気付いている。
自分でおもちゃをつくってみよう(5)	思い描いた動きになる作り方の札を示したり、動力になる部分の作り方の工夫の例を紹介し、作り方と動かし方について説明したりする。	自分の思いや願いに沿ったおもちゃを作ろうとしている。
みんなであそぼう(2) 「秋のフレンドパーク」	競い合っておもしろかったことなどを想起させたり、協力すると楽しくなることを話したりする。	みんなで遊ぶことに興味をもち、協力して遊びを楽しもうとしている。

## 7. 成果と課題

子どもたちは、1年生やおうちの方たちを招待して自分たちが作ったおもちゃを遊んでもらうという目標を持って、フレンドパークに意欲的に取り組むことが出来た。日記からも、「1年生やおうちの人に楽しんでもらえてうれしかった。」や、「また来年もフレンドパークに招待したいと思った。」などの意見が多かった。また、来年度の2年生に向けて材料の準備方法やおもちゃを作り上げていく作業を子どもたちがより積極的に行えるような取組などについて考えていく必要があると感じた。